#515 WAS BORN





















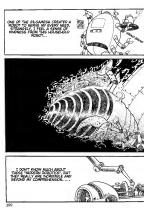












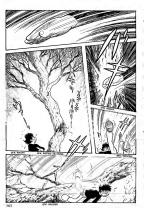




























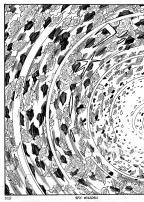






























































































石 THE ROAD OF RYU



入門古代中

計 人類の超古代史をテーマにし 「ギルガメッシュ」を参考に、 古代の謎に接続してみよう!



「最適の無はかっているという。」

「最初の無はかっているという。」

「最初の無はかっている」

「最初のはなっている」

「なったいる」

「



2000行ほどしか現存していないという。

シュメール女明とギルガメッシュ叙事詩

oともいわれ、端とされている。 収古というにはシュメール文明は窓 パール人のルーツは未だにわからな





の担い手、シュメール人の継

白き、たおやかな巨峰

した。構成とはコマを削り、どう見せるかの技術である。コマとコマの間では時間の消去が為される から、構成でつまづくと作品が流れない。つまり、読者の目線を狂わせ、難解になってしまう。コミ 「構成の巧みさで、石ヶ森の右に出る者はいない」――さいとう・たかをが唸っていたのを何度か耳に

合っていた。同態している私などが、割っては入れないような雰囲気を振わせていたものだ。 言葉を信りるまでもなく、主人公はもちろんのこと、それ以上に構成の天才でもある。構成が流れるックが、主人公と構成によって成功か否かが決まる所以である。そして石(兼は、さいとう-たかをのックが、主人公と構成 った。それはおたがいの才能を摂敬し合っていたからに他ならない。 と構図もおのずからきまってくる。結果、読者がすらすらと真を繰っていけるということであり、じ 額を寄せ合うという表現があるが、2人はいつも鎖を寄せ合い、じつに楽しそうにひそひそと話し むかし劇画と漫画が不伸であった時代でも、さいとう・たかをと石/森は、今と変わらず大親友であ

さて、ギルガメッシュ――Gi‐gamesh‐‐だが、じつは私も、このBC21世紀・ウルク節

の世に雖らせた。一方、私の作品は、冷凍させた大王の精子が参判に埋れ、現世紀に至るというもの 一王朝第五代の大王の作品を書いたことがある。石ヶ森作品はクローン人間としてギルガメッシュをこ

だったが、お互いに年ルガメラシュに興味をそそられたと思うと、なじか嬉しい気がした。 ギルガメッシュは世界最古(BC7世紀)の古代パピロニアの英雄叙事詩に登場する主人公でもあ

死後の世界で、ノアの箱舟の洪水伝説はこの物語に依るとも一説ではいわれている。 り、シュメール語で書かれたその粘土書板は、大英博物館に現存している。緘事詩の背景にあるのは

る。若し彼がこれを小説で書いても、さぞや面白くなったであろうと、勝手に想像して楽しい。石ヶ森 性が絵を喰っている場合もあったりして、そのようなときは、ともすると、追方とか繰ろしさが薄れ 石/森作品の特長は読者の想像を越える意外性と、見事な説得性である。そして、ストーリィの説得

は、小説を書いたとしても卓抜した存在になっていたのではないか……。 本作品も、その一つであろうかと私は勝じている。石-森作品には珍らしく、語りが多い。つまり、

れたもので白を染める。終るとまた白くなり、感性の網に近ついてくる餌を待つ。 んでいて、コミックだけでは表現に余るテーマだったといえるのではないか。 文字で説明を補足しなければ作品背景を語りされないということである。それだけストーリー性に富 それにしても彼の感性は慌く凄い。そしていつも白い。白いからこそ、その折その折の感受性に無 石・森が時代を越えて、常に第一線で活躍できるのは、その白い感性があるからだと私もまた、提敬

(しぶりに出金うと、問いかけるようなじつにやさしい職をして、こちらが話しかけるのを待つ。

年のように輝いている。石/森窓太郎、上れそうで上れない白き、たおやかな巨峰か。 こちらの話題に合わせようという姿勢だ。そしてその眼は、いつも新しいものを求めてキラキラと小

25 L miles of control or cultivations. Association for control or control or cultivation for control or con



章太郎リュウ

リュウの道 全5巻 原始少年リュウ全2巻 番長惑星 全3巻

石/森音太郎•著

三部作10拳拳隊ボックスセット6000円(およ)



COPTRISH 1977 BY SHOTADO SHINOWOR LADVINESE VERSION PUBLISHED IN 1977 BY SHOUNEN GAROUSHA RE-PRI, ASE PRISHSED IN 1967 BY SHOUNEN GAROUSHA PRISHSED PRISHSED IN 1965 BY ASSAUS SOCKOAMA PRISESE TO SHISHEN TRANSLATION AND TYPESETTING OWNE BY CARAIN HILLOO

> HTTP://WWW.TAKESHOBO.CO.JP/ HTTP://CMRAW-ELLOCK.BLOSSPOT.CO.UK/